

昭和二十四年十一月四日

國際私法學會記錄

國際私法學會設立

昭和二十四年十一月四日、神戸大學に於て國際私法學會<sup>設立</sup>生<sup>誕</sup>。東京大學助教池原季雄、東京大學教授江川英文、神戸大學教授川上石郎、東京商科大学教授久保山石二郎、中央大學助手桑田三郎、京都大學教授齋藤武生、大阪大學教授安貝元雄、慶應大學助手須藤次郎、東京大學特別研究員山田謙一の諸氏參加。

國際私法學會第一回例会

昭和二十四年十一月四日、神戸大學に於て國際私法學會第一回例会を開催。

当日に於ける研究報告の報告者並に演題は左の通りである。

二十前之部

東京大學助教授池原季雄

國際私法に於ける裁判管轄權と當事者の國籍

二十後之部

京都大學教授齊藤武生

マンチニーの國際私法理論

神戸大學教授川上二郎

國際私法學方法論

各報告に、報告終了後質疑應答が活發に行われ、午後五時  
終了。引き続き神戸大學兼松記念館に於て懇親茶話會と  
舉行し、和氣雨謁々の裡に午後八時過ぎ會を閉ぢた。

尚當日の硏究報告會並に懇親茶話會の出席者は凡の通り

あり。

東京大学助教授 池原季雄

東京大学教授 江川英支

神戸大学教授

川上太郎

東京商科大学教授

久保岩太郎

中央大学助手

又原田三郎

京都大学教授

齋藤武生

大阪大学教授

菅方正雄

慶応大学助手

須藤次郎

東京大学特別研究員 山田鏡一

(五十音順)

### 国際私法学会第二回例会

昭和二十五年五月五日、東京大学名誉教授 山田三良 九州大学

教授 西山重和 金沢大学教授 長谷川理衛 東北大学助教授

折茂豊、四氏 国際私法学会二新加入

昭和二十五年五月五日 神戸大学に於て國際私法学会第二回  
例會開催。

當日に於ける研究報告の報告者並に演題は右の通りで  
ある。

十前之部

東京商科大學教授 久保岩太郎

我が民事法上の住所

京都大學教授 齋藤武生

國際私法上に於ける住所地概念の決定

十後之部

東京大學教授 江川英文

屬人法に於ける本國法主義我と住所地法主義我

東北大學助教授 折茂豊

屬地主義理論

各報告毎に質疑應答活発を極め、午後五時頃終了。

我が國法學會の最長老山田三良博士を囲んで記念撮影を爲し、後兼松記念館に於て懇親茶話會に移す。

和かる團樂の後、午後八時頃一切の行事を終了。

尚當日の研究報告會並に懇親茶話會の出席者は次の通りである。

東京大学名誉教授 山田三良

東京大学助教授 池原季雄 東京大学教授 江川英次

東北大学助教授 折尾田豊 神戸大学教授 川上太郎

東京商科大学教授 久保若太郎 京都大学教授 齋藤武生

慶應大学助手 須藤次郎 九州大学教授 西山寛和

金澤大学教授 長谷川理衛 法學士 山田録一

國際私法學會第三回例會

（別紙）

昭和二十五年十月二十七日 京都市百萬遍附近元西園寺公清風苑  
において國際私法學會第三回例會開催。

秋の日差しと浴びてから、豪客者も西園寺邸内の日本園にて  
和かき酒宴園遊のうちに研心會と行うことができたのは何より  
も喜びばしいことであつた。マリア室では川上太郎氏と折茂田君  
との二つの報告が行われる筈であつたが、折茂氏を病氣の爲、  
川上太郎氏の報告と、今夏ローマ私法國際會議のロンドン  
比較法國際會議に出席された江川甘史氏の帰朝報告とが  
行われた。

二十前丸十時より

神戸大学教授 川上太郎氏

外國會社の支店の國際私法上に於ける地位  
外國会社の國際私法並に外人法上の諸問題と先ず  
一般的に説き、次いで改正商法の外國会社の規定の  
解釋論と展開された。  
報告後、活況よく討論がなされた。

### 昼食

有藤教授の御盡力により、會員團體のうちに、  
もさかにも、その後、會計報告、新會員の紹介があり、  
新會員の募集集の件、相談、會報発行の課中  
等につき打合せが行われた。

### 午後 時より

東京大学教授 記川 英文氏  
歐洲より 帰りて



ローマ私法國際會議及びロンドン比較法國際會議の  
標本を系詳細に報告せしめ、その他歐洲の近況を  
コーモアと目せ之を記し、渡政の経験をもちれる諸氏  
には特に感銘深い印象を与へた。

尚當日は私法学会第一日に當り、同志社大学講堂  
において一般講演が予定せられたる關係で、三時頃例会  
を打ち切り、王貝同志社大学に赴りた。

當日の例会出席者者は次の通りである。(順序不同)

京都大学教授 齋藤武生 大阪市立大学教授 實方正雄

東京商科大学教授 橋本敏教授 久保岩太郎 東京大学教授 江川英文

神戸大学教授 川上太郎 同志社大学教授 島本英夫

名古屋大学助教授 山田鏝一 慶応大学助手 須藤次郎

中央大学助手 桑田三郎 中央大学助手 木原平八郎

新加入會員 (昭和二十五年十月二十七日)

山戸嘉一 西島彌太郎 木原平八郎

島本英夫

新加入會員 (昭和二十五年一月二十四日)

佐藤信太郎

國際私法學會第四回例会

昭和二十六年一月一日、一橋如水會館新館に移す

學會の定款作成よりついで種々協議の結果如水に後

法の研究の報告があった。

最近のフランスの國際私法に關する若干の點について

東北大学教授 折茂 豊 氏

國際私法學會 研究會 例會

昭和二十六年十一月廿日

神戸大学に於て

研究報告

ロイヤル學會の法澤上の地位

同志社大学講師

岡本善八氏

準拠地觸法の由題 — エッリク・タインの新説

中央大学助手 島本田 三郎 氏

右終了後午後四時三〇分より懇親會が申された。

国際私法学会東京分會開會

昭和二十五年四月三十日

日本比較法研究所にて

研究報告

婚姻の財産的効力の濫用防止の考察

東京大学助教授

折茂 曲三 氏

婚姻の身分的効力の濫用防止の考察

京都大学助教授

瀧池 良夫 氏

右終了後国際私法講座執行部新当りを行ひ、  
此時より懇親會を申催、我盛會のありし。



研究報告

国際二重課税のついでに持の二おりの教授の新説を中心として

関西大学 印平 本浪 章 市 文

フランス国際私法<sup>に於ける</sup>の管轄の範囲の限界——若干の

判例を踏まえて、リウカ教授の把握

日本比較法研究所 印平 早田 甚 部 文

右終了後、有斐閣江草、新川、西成、も出席あり、国際私法講座

の執筆とらへお合せあり、所お学今後の活動のりり

種、意見の交換が行われた。懇親会は午後五時より

開始された。出席者は、盛合司あり。

出席者 ~~早田 甚 部 文~~

折茂 豊、山内 甚 文、久保 岩 吉 郎、長谷 倉 理 衛、桑 田 三 郎

早田 甚 郎、山田 鏡 之、青 藤 武 吉、瀧 池 良 夫、木 原 平 八 郎

(研究会より) 島本英文、田中善八、本浪文章等

実方正雄、川上太郎、新川正美、池原季雄

山口晃 (研究会より)

国際私法学会第八回例会

昭和二十八年四月三日 於慶應大学

研究報告

田中善八の自筆稿 中野吉吉氏手 柴田三郎氏

離婚の博覧会より 京都大学助教授 沼田良吉氏

右終了後、研究会由緒、山田名子会長の報告あり、投票あり等あり。

江川理事長より一般論、会計等の報告あり、新入会員の紹介あり。

会派即新報(東京法) プレトウモロ氏、天ヶ崎武勝氏(東京知事)

丸田 珍雄氏 (東京市即子) の 勲 (念) を 承 知。

千原 忠雄氏 (熊野) 念を 承 知。 鷹 渡 前 主 持 持 出 席 控。

西 原 幸 七 海 邊 が 勲 章 授 予 散 念。 日 外 勲 章 念 付 出 席 控。

江 草 氏 も 出 席。 古 江 記 念 標 旗 を 行 った。

出 席 者

ト ー 子 氏、シ、ブ、レ、イ、ウ、セ、ウ (研 究 会 子)、江 川 英 文、長 谷 川 理 衛

本 浪 章 市、早 田 著 郎、池 原 幸 雄、川 上 吉 郎

栗 田 三 郎、久 保 岩 治 郎、前 田 光 雄、丸 田 珍 雄

折 茂 豊、岡 本 善 八、南 口 晃、須 藤 治 郎

山 戸 嘉 一、天 崎 武 勝、三 澤 博、溜 池 良 夫

三 浦 正 人



国際私法研究会第九回例会

昭和八年十一月三日

於 京都古き果友会館

研究報告

金銭債務の消滅事由問題

同志社大学教授 岡本善八

この問題の国際私法規定

慶應大学助教授 徳田清太郎

右終了後 討論を再開

学会開催を年一回とする案 及び 研究費調査

委員候補選出等を議し 前者は他の学会の方針を参考のするに条件

。年一回案を採決 前者は 川上、江川、西理事を選出。後者

新入会者として 川又氏(京都大学) 西氏(京都大学)を承認。

午後六時より平会室にて懇話会開催 盛合禮を七時迄

を散会。

なおこの日の学会誌の発行 国際私法雑誌 第九回例会の巻

（公） 報告

以上各名も関係者同上協議の折中にて、特に、学会法改正の  
 つきには、一月二日、東京の東京大学に於ける島田助教報告後、  
 江川、池田、川上、久保、桑田、喜方、須藤、沼池の諸名  
 由り協議し、相方目付代した。  
 本報告者

トラス「バリエア」 江川喜文 長谷川理衛 早田喜郎

池田重雄 川上右郎 久保岩太郎 桑田三郎

三浦正人 西賢 中村武 (報告者) 岡本善八

喜方正雄 藤原武吉 島本喜文 沼池良夫

山田鈴一 大郷正夫 松岡熊三郎 (報告者)

國際私法學會第一〇回例會

昭和九年一月一日(土)

於 中央大学旧西園寺邸

研究報告

英米國際私法における任許

—— 屬人法の決定基準として —— 名古屋大学教授 山田隆一

「最近のわが国における國際身分法に關する二、三の事例」

東京大学教授 池田重雄

右終了後總會を閉催。

午後五時より、同所において懇親會に移り、

盛會裡に午後八時始散會

。この由、學會誌の發行、國際私法講座の執筆促

進等につき、関係會員の由が種々協議が行われた。

出之者

山田三良

(研究員)

田中耕太郎

(研究員)

本佛有林

江川英文

~~山田~~ 山田隆一

山田隆一

長谷川理衛

トーマス・L・ブレイク

(研究員)

岡本善八

~~三浦~~ 三浦正人

~~池田~~ 池田良夫

池田季雄

天ヶ崎武博

川上太郎

丸岡松雄

川又良也

高橋隆武生

大郷正夫

~~早田~~ 早田三郎

早田三郎

岡口晃

李浪章

中村武

国際私法学会第十一回總會

昭和二十九年一月三十一日(日)

於 公立学校法務研究会大塚会館  
浪速社

研究報告

「中の回における国籍に関する判決先例の比較法的研究」

中野吉子 助教授 桑田 三郎

「国際私法における長子特選の成立に関する二三の論點」

東原吉子 助教授 池原 季雄

總會

池田良雄 (参議院法判事) 秋川純吉 (名古屋地裁判事)

和田誠一 (辯護士) の諸氏の入会を承認。

国際私法講座の編集、出版状況の報告 及び

岡本即教授の「高牙」巻の執筆に就いての報告

決定。

親會 午後五時始まり 同所におり、南濱 七時迄

或合理に散會。

出席者

久保岩太郎

本浪章平

江川葉久

川又良也

美才正雄

三浦正人

山田鏗一

西賢

長谷川理衛

早田芳郎

岡本善八

梨田三郎

池田文雄

池田重雄

越川純吉

川上右郎

トリス・ヒルグレイター

高橋武生

和田誠一

(研究報告書)

(研究報告書)

国際私法学会 第 十 二 回 例 會

昭和三年五月一日(日) 十時—十一時 東京大学 山上会議所

研究報告

「W. W. Cook の国際私法を説く」 島根大学 三浦正人

「国際私法規範の普遍性に關する一考察」

東北大学 折茂 豊

總會

三ツ木正治(辯護士) 林脚(子) (慶應大学) 谷川久(東北大学)

岩崎 柏(同上) 大塚 謙一(東北大学) 伯朝( ) の諸氏の入會

を承認。 昭 齋 齋 齋(同上) ノーメン・センセン(同上)

懇親會

午後五時頃より 同所において 開演。 山田 石 幸 会 員

も出席者。七時迄が盛合裡に散会。

出席者

池田文雄

池原香雄

岩崎 柏

江川善文

大郷正夫

沼龍雲

折茂豊

川上太郎

久保岩太郎

羽柴田三郎

越川峻吉

祐田隆武生

海谷方正雄

西賢

長谷川理衛

林 脩（子）

早田芳郎

津波 章平

北園 松雄

三浦正人

山田 鏡一

山内 喜郎一

谷川 久

大糸 繁一

天ヶ崎 武勝

トリスル（子）

三木 正治

山田 三良

（新井 春一）



国際私法学会 第十三回例会

昭和三年一月二日(水) 一〇時—二〇時

京都大学 東友会館

研究報告

「有価証券の国際的売買における所有権移轉に関する一稿」 荻原章彦

東京大学 江川英文

池原季雄

「株巻義務に関する一稿」 荻原章彦

神戸大学 川上右郎

関西大学 本浪章市

總會 場所を懇親会場に移し、開会。来朝の学会を神戸大学に於て

開催する旨を決議した。

懇親会 午後六時より

三お夕々南催 午後八時

道が盛合 輝仁散会

出席者

江川 芳文 加藤 一郎  
(研究会カ) 川上 右郎 久保 岩太郎

桑田 三郎 越川 純吉  
滝川 藤武生 溜池 良夫

西賢 長谷 理衛 林 昭子 早田 芳郎

日笠 野英一 (研究会カ) 本浪 章平 丸岡 裕雄 島本 英夫

西原 道雄 三浦 正人 山田 謙一 山内 嘉一

三木 正次 矢崎 武勝 和田 誠一 我妻 栄  
(研究会カ)

池原 季雄

国際私法学会 第十四回総会

昭和三十一年五月一日(日) 一〇時—一八時

中央大学 旧西園寺邸

研究報告

「国際親子法に関する若干の判例」を讀んで

名古屋大学助教授 山田謙一

「イタリヤ国際私法における裁判管轄権」について

中央大学助教授 三浦田三郎

総会

名古屋大学助教授 山本敬三 一橋大学大学院 大塚一、

中央大学大学院 澤木敬郎 家庭裁判所調査官 鮫島龍男

の諸氏の入会を可決。 次々、フルブライト交換教授として

東京大学にあるカリフォルニア大学教授「フット・A. エーレンツァー」

氏を名譽會員に推すことを可決。

〔懇親會〕

エーレンワグイグ教授より交歓會を兼ねた「山の上ホテル」におい

て午後四時よりパーティを由催。同教授のほか

山田、田中、西名譽會員も、我事教授より他の出席があり、極中

盛會禮に午後七時頃閉會。

〔出席者〕

国際私法学会 第十五回例会

昭和三十一年一月三日(土) 九時三十分—十一時

神戸大学

〔研究報告〕

「フランス国際私法における夫婦財産制の準拠法の決定」

岡山女子講師 丸岡松雄

「佛民法第三三條第三項の一考察」

京都女子 西賢

〔總會〕

鈴木ハコヨ 氏

（の入会を

可決。

〔懇親會〕

午後五時開始 神戸大学職員会室におこな

南進 千波七時次 盛合親 終了。

〔玉常者〕

煉場澤一 池原季雄 大郷王夫 川上右郎

川又良也 久保義部 桑田三部 有藤武生

沢木敬郎 園口 晃 (輝元公) 西政真 春谷川理衛

林勝三十一 本浪章平 丸岡松雄 三木正次

天ヶ崎武勝 山田繁一 山戸崇四一

第一六回 總會

昭和三年五月三日(金) 一〇時—一九時

一橋講堂(天野記念館)

〔研究報告〕

「英米法の遺産管理をめぐりて」 牧岡清上の一考案

九州大学助教授 矢野崎 武晴氏

「米田における外国法の適用」

一橋大学大学院 畑場準一氏

〔總會〕

理事、監事」は任期満了となったが、再選、更に新理事

として、東北大学教授折茂豊氏が選任された。次ぎに、

専修大学 勝本正晃氏及び一橋大学大学院 海老原美弘氏

の新入会、フルブライト交換教授及び日米法を交流のため

東京大学法学部に派遣せよとの米田ハーバード大学教授

アーサー・ファン・ターレン氏を名譽會員に推すことを可決。

〔懇親會〕午後五時より同所におき懇親會を閉催。

一橋大学法學部長 野田 氏及び若永教授もお席におき午後六時

研究会より引續きファン・ターレン教授その他多数會員の出席により

一九四三年の盛會裡に終了。

〔出席者〕

柴澤洋一 池田文雄 池原季雄 石川吉右衛門 海老沢美佐

江川英文 政龍雲 大原榮一 岡本吾八 折茂豊 勝本正晃

川上太郎 久保岩太郎 越川純吉 齋藤武生 澤木敬郎 須藤次郎

岡口晃 谷川久 溜池良夫 西賢真 西山重和 長谷川理衛

林脇とし子 早田芳郎 本浪章市 三木正次 三浦正人 矢崎武勝

矢澤悳 山本敬三 山田鑠一 山戸喜治

アーサー・ファン・ターレン (以上三四名)



# 第一七回 總會

昭和三年一月十七日(木曜日) 一時—一九時

開 西大女子会

## 〔研究報告〕

「英法における離婚判決の承認に關する最近の二、三の判例」

開 西大女子 本浪章市氏

「いづゆる道心問題」

島根大子 三浦正人氏

## 〔總會〕

右研究報告会を終了後、討論會を閉會。日米諸子交流の爲め、東京女子大子院で研究會中のレックス・コールマン氏の入會を可決。その他、別に議題はなかつた。

## 〔懇親會〕

總會終了後、午後五時過ぎ、女子会近くの

旅館にて開催、八時迄く成会、禮下散会

〔出席者〕

池原 幸雄 川上 太郎 久保 岩太郎

藤 藤 武生 沢木 敬郎 須藤 次郎 (懇親会出席)

溜池 良夫 西 賢 本浪 章帝

丸岡 松雄 三浦 正人 山田 鏡一

和田 誠一 シラス、コトルマン

第十八回総会

昭和三十三年四月六日(日) 一〇時—一八時

慶応義塾大学 塾監局

〔研究報告〕

「国際私法規定のあり方」  
有価動産の口際の付置と有する売買に因する  
口際私法統一案の案をめぐって

慶応義塾大学 林 脇 トシ子 氏

「Localization objective — パナソルの新論から」

東京大学 澤 木 敬 郎 氏

〔総会〕

午前(十時半—十二時五十分、質疑応答—十二時三十分) 午後(二時半—三時半、質疑応答—三時半)の研究報告の後、引続き開催。名古屋大学助手鳥居淳子氏の入会と満

場一叙と可決、三十二年度決算報告がなされた。

引続き判例集関係者の打合せが行われた。六月に法務資料として出版するに際して学会の名に於て  
すゝ事承忍された。

〔懇親会〕慶応大学法学部長山原氏を迎えて、六時過ぎ迄なごやかに行われた。

〔出席者〕

殊場準一、江川英文、海老沢美広、政龍雲、岡本善八、折茂豊

川上太郎、久保岩太郎、香藤武生、鮫島龍男、沢木敬部、岡口晃

須藤次郎、谷川久、中村武、西賢、林脇トシ子、早田芳部

本浪章市、丸岡松雄、三浦正人、山田鏡一、山本敬三

鳥居淳子、与久スズル子、(三五名)

第十九回總會

昭和三十三年十月十五日(水) 一〇時—十九時

甲南大學

〔研究報告〕

イギリス國際私法における離婚裁判管轄権の決定

山本 敬三氏

國際私法における部分問題の理論

中矢 大學 桑田 三郎氏

〔總會〕

午前(十時—十二時)の研究報告を終え、午後の研究報告(一時—三時)に先立ち、乙行われた。早稲田大學比較法研究所助手土井輝生氏の入会を承認。

学会開催回数(年一回)と云ふことの問題を提出すべからざるを得たに至らざらん。

〔懇親会〕

甲南大 山戸教授、神戸大 川上教授、即配慮へり、研究報告終了後、中国古銅器展を見学。再び大学の戻り、学生会食堂にて時迄、歓談した。

〔出席者〕

鳥居淳子、和田誠一、（研究報告のみ） 岡本善八、（同上） 三浦正人、川上太郎

江川英文、山田鏡一、桑田三郎、杯脇トコ子、澤ノ木敬郎、本浪章市

西賢、山本敬三、溜池良夫、ミツ木小次、レックスヨールマン、山戸嘉一

土井輝生、岩崎柏（懇親会のみ）

（以上二〇名）

第二十回総会

昭和三十四年四月八日(水) 一〇時—一五時

中央大学会館 二〇四号室

〔研究報告〕

「法性決定の対象問題の意味—ウエングラーの理論を中心として—」

一橋大学 畑場準一氏

「英口際私法における契約の準拠法」

名古屋大学 鳥居淳子氏

〔総会〕

午前十時—十二時)の研究報告及び討論と終え、昼食。十二時半より一時迄行われる。

昭和三十三年度の決算承認。理事及び理事長の重任と満功一致が可決。再選した。

名古屋大、山田教授、一橋大、久保教授、判例集についての報告があった。

「懇親旅行会」

熱海龍泉閣へ、東京発四時三十分の汽車で向い、七時着。一夜を親しく懇親会と

同い。翌朝、判例集についての協議、左の事項が承認された。

①判例集の原稿は返却しない。②判例集は全日本主要大学及び申込のあったもの配布

する。③索引、正誤表の作成については、山田教授に一任。④今後、資料蒐集は、カー

作成の止め、改訂を科目研究費の申請と一任で行う。⑤③に用いる費用は法曹会からの

印税と特別会計とを以て用い、これを充てる。⑥ケースブック作成については、今後、委員会

よき具体的な検討を行う。⑦学会費の中、四月はこれと⑤のためを費用に充てる。

「出席者」 西賢、本浪章市、鳥居淳子、沢木敬郎、九岡松雄、桑田三郎、山田鏡一

青藤武主、堀池良夫、川上太郎、以上旅行参加者。山本敬三、土井輝生、政龍雲、久保岩太郎

折茂豊、杯脇ト子、塚場津一、早田芳郎、三ツ木正次、レックススエールマン、岡本善八

実方正雄、池田文雄、中村武（以上研究会のみ）合計二十四名



第二十一回総会

昭和三十四年十月十六日(金) 一〇時—一七時

京都大学法経研究室 会議室

「研究報告」

「法例改正の手續にフリス」

神戸大学 川上太郎氏

「米国国際私法の一傾向」

東京大学 池原季雄氏

「総会」 午前の研究報告終了後、樂友会館に於て、懇親昼食会を同

時、その間(十三時—二時) 天ヶ崎武勝氏の帰朝談等、及びやかに交歓が行わ

此同時に、総会記事として、左の事情の報告、討議された。

一 江川教授より、学会開催時期と回数について、提案がなされ、結論は得られず。

二 久保教授より、学会連合の報告として、シヤパン・アニアルの近況。

三 山田教授より、判例集、訓令の出版について、報告があった。

四 シヤパン・アニアル、J.S.R.の集稿が少いこと、学会より、同題の補助とする。

「懇親旅行会」 京都、東山荘にて、一部の出席者により、夕食会が開かれ

一部はそのまゝ泊り、研究を続け、夜の更けに、趣談した。

尚その際、各大學に判例集を寄贈する場合、送料を申受ける。学会報告を江川

改正に送るため、各研究者の研究テーマを申出する。立教大學澤本敬郎氏を幹事

とすることが承認された。

「出席者」 西島彌太郎、島本英夫、鮫島龍男、三ツ木正次、和田誠一、山崎崎和、桑田三郎（以上総会のみ）

久保岩太郎、江川英又、斎藤武生、川上太郎、池原季雄、瀧田良夫、丸岡松雄、山田鎌一、三浦正人

本浪章市、夫々崎武勝、西島、山本敬三、島居清子、岡本善八、沢本敬郎、以上二十三名

第二回総会

昭和三五年五月一日(日) 一〇時—一七時

名古屋大学法学部会討室

「研究報告」

「法例六七條の改正について」

神戸大学 川上太郎氏

「立法論としての法例九九條」

中央大学 桑田三郎氏

午前一〇時—三〇分より十二時迄川上教授の報告があり、三〇分内討論の後一旦休憩

午後二時—五分より法務省村岡参事官から法制審議会に於て簡單なる

紹介があり、二時半より再び討論。三時より上時より桑田助教の報告と討論

「総会」

午後の研究報告に先立ち、総会が開かれ、左の点が承認された。

一 新入会員。 村岡二郎氏、竹内昭天氏、志水義文氏、西 迪雄氏。之十嵐

清氏、米澤進 氏 の六氏である。 尚岸田準一氏にフいても承認されたが、

入会の意思が明らかでないが、 留保。 その他出席され会費は支払われぬが、総会

では承認されたものゝ如き寺田四郎氏、 古瀬村邦雄氏。

二 昭和三十四年度会計報告。 同時の利息額。三つに、来年度決算の際神公

了。とかが併せて承認された。

三 会費返上ケの件。 中三回総会より、会費を三〇〇円に他上ケ了。

〔懇親会。 エラスカーニョン〕 研究会終了後東山会館にて懇親会が開かれ、天沢教授

谷川明教授の帰朝後等七時過ぎまで 歓談した。翌五月二日 会員有志にあつて

大山城 日本ライン下りの遠足を試みた。ま憎の雨にも拘らず 楽しい一日であった。

〔出席者〕池原孝雄、江川英文、岡本善八、折茂豊川、上太郎、森白三郎、名保岩太郎、ヒューズ、越川純吉、沢本節郎

島本夏夫、瀧池良久、土井輝生、島居淳子、西賢本、浪亭市丸岡松雄、三浦心人、天沢博、山本敬三、山省鐘一、中村武

村岡二郎、竹内昭天、岸田準一、谷川ス志水義文、寺田四郎、古瀬村 以上三九名

第三回總會

昭和三十一年十月十日(水) 一〇時—一七時

立教大学法学部会館

〔研究報告〕

「現行法例の成立について」—法典調査会理事録を中心として

青山学院大学 久保岩太郎氏

「Will, Trust and Credit」—条項に因する若干の判例について— 京都大学

田又良也氏

「外口判決の承認の条件に因する考察」—民法法二〇〇條の解釈適用九州大学 矢ヶ崎武勝氏

午前中久保教授の報告が十二時半で終わりその後十分間總會。午後一時半より五時半迄熱心な研究討論が行われた。

〔総会〕 十三時半より同日下午迄

決定事項 左の通り

一 学会連合本部は引続て又得教授にお勤りする

一 一九五九年度のシヤパニアニヤンの余福は、決不動教務に依頼する

一 来年度春期学会の間借については、意見の交換を行われたいのである。

〔懇親会〕 研究会終了後、立教大学 五号館 教授室においでして七時過ぎ迄、立食形

式になじやわい行われぬ。又五十嵐清、米津道、西迪雄の三新会を以て始め、出席者は

〔出席者〕 塚場準一、五十嵐清、池原季雄、江川英文、坂龍雲、岡本善八

折茂豊、川上太郎、川又良也、久保岩太郎、越川純吉、佐藤信太郎

鮫島竜男、沢木敬郎、谷川久、土井輝生、島居淳子、中村武、西賢

西迪雄、林腸ト子、早田芳郎、本浪章市、米津道、丸岡松雄

三ノ木五次、村岡二郎、天ヶ崎武勝、山田鏡一

第ニ四回總會

昭和三六年五月五日(金) 一〇時—一七時

青山学院大学 五号館第ニ三会討室

「研究報告」

午前の部 (一〇・一五—一一・〇五) ……(討論) ……(三・三五) 座長 川上太郎氏

「外国為替管理法の適用について」 早稲田大学 工井輝生氏

午後の部 (一一・四〇—一二・三〇) ……(討論) ……(三・三五) 座長 折茂 豊氏

「フランス国際私法に於ける夫婦財産制の準拠法」 岡山大学 丸岡松雄氏

「総会 (一一・五—一二・四〇)」

昼食後 午後の研究報告に入らる前に行われ。決定事項の通り。

一 理事 (久保江川川上 青藤 折茂) 監事 (実方) 氏とそれこれ再選する。

二 新入会員として、加藤金造（東京家教）、畑澤（同人社会）日中徹、喜多川葛  
典（都立大）の四氏の入会と承認可決

三 会計報告と承認

四 雑件として、J.S.R.の担当、次期会場、学会共同事務所設置の件について討論し  
たが、いづれも結論のむづろ、特に最右のものについては見送ることになった。

〔研究討論〕（三三三—三三〇）

三時より、同会場にて、国際法協会日本支部総会が開かれ、一部会員は、さくらん  
出席一人（江川久保、川上折茂等十数名）。この間を利用し、天崎武勝氏「法性決定論  
試う大争は法政學論の還えたる（ま）論」をめぐり討論。

〔懇親会〕 研究会終了後、栗山協会支部長に、大ホールにて盛大に行われた。

〔出席者〕 井輝生、江川英文、杯脚トニ子、五十屋清、池原孝雄、加藤金造、川上太郎、越川純吉、久保孝彦

丸根雅雄、藤原功平、畑澤、喜多川葛典、天崎武勝、村岡二郎、西隆、折茂豊、鮫島孝男、藤田信太郎、  
沢木敏郎、島本英夫、沼地良久、山本敏三、米津進、田中徹、政編登、池田文雄、三米正次、本浪幸市、谷川久

大野西天（懇親会のみ） 大野孝（研のみ）



第三五回總會

昭和三六年十月十四日(土) 一〇時—一七時

京都大学 法経會議室

〔研究報告〕

午前の部(一〇:〇〇—一二:三〇)

座長 川上太郎氏

「法律回避理論の適用範囲について」

広島大学

山本敬三氏

午後の部(一三:〇〇—三:〇〇)

座長

久保岩太郎氏

「国際婚姻法に関するドイツ改正要項について」中央大学

桑田三郎氏

(三:〇〇—四:三〇)

座長

折茂 豊氏

「国際私法における移民の取扱」

東京大学

欧 龍雲氏

〔総会〕(四三—四四)

今回の研究会の開催時期場所について討議し、結論がなかつた。

〔懇親会〕(五〇—七五)

研究会終了後、京都大学芝蘭会館にて、純社風にて行方。江川理事長はヨロシム、行かれ不在であらう、久し振りの青藤孫後出席され、同先生の全快を祝して乾盃する。こころう南会、終始なごやかな懇話が交された。

〔出席者〕

桑田三郎、久保岩太郎、川上太郎、青藤武生、山本敏三

折茂豊、丸岡松雄、三浦正人、林勝ト三子、土井輝生

政 龍雪、鳥居淳子、池原季雄、五十嵐清、沼池良夫

西 賢、澤木敏郎、川又良也

越川純吉、山田鑄一、早田芳郎 (研究会のサ)

(以上二一名)

第二十六回総会

昭和三十七年四月十九日(木) 10時 - 13時

神戸大学経済経営研究所調査室

「研究報告」

(1) 旧法例の沿革

座長

川上 太郎 氏

(1000-1300)

慶応義塾大学

須藤 俊郎 氏

(2) 司法扶助条約による東欧諸国の国際私法

座長

池原 素雄 氏

規定の統一について (1000-1300)

神戸大学

西

賢 氏

(3) 法性決定の問題に関する一考察

座長

久保 岩太郎 氏

島根大学

三浦 正人 氏

「総会」 (1000-1300)

① 会計報告の承認 ② 学術用語審議会委員合委任の長谷川理衛氏と掛世人子氏

の事後承認 ③ ジャパン・アミエルの執筆者として1960年度 沢不敬部也 1961年度  
西賢を指名依頼。④ 新入会員として 小瀬保部、田村精一 綿引  
三代の入会承認。⑤ 次期会場として慶応大学に依頼。

〔懇親会その他〕

昼食時に記念撮影。研究会及び総会終了後 神戸大学 教養食堂にて 法学部長八木弘氏  
の出席をえて、六時迄 在りやかい懇親会が行われた。更にその後有志の者が神戸ア  
ラビアに於いて八時迄 懇親会を催し、<sup>①</sup> 出前会、<sup>②</sup> 研究会、<sup>③</sup> 学合連、<sup>④</sup> 口際私話  
講座三巻の出版。判例集の継続作業等<sup>⑤</sup> 同し、討議が行われ、特に①②③については  
池原、沼池、山田、西の四氏からなる特別委員会に研究を依頼し、又④については 九月一  
々切の督促とすべしとなつた。 和日誠一、山田、山本、三田村、喜多、島、三ツ木、西、次

〔出席者〕 土井輝生、江川英文、林脇トミ子、五十嵐清、池原香雄、川上太郎、川又良也、久保孝太郎、又野田三郎  
丸岡松雄、三浦正人、西賢、岡本善八、小瀬保部、青藤武生、殿島精男、沢不敬部、須藤次郎、沼池忠夫

第二七四号

(一〇冊入時)

昭和三十一年一月一日〜七日(慶応大学法学部)

一、研究報告

の法租界の承認—相互主義を中心として— (一〇、〇〇〇—一二、四〇〇)

報告 江川 英之(主幹大) 川又 良也(京都大)

村岡 一郎(法務省) 矢崎 武勝(九州大)

司会 川上 太郎(神大)

(2) フランス国際私法—地方官離婚準拠法を繞る—考察—リカマン判例以後—

(一五、四〇〇—一六、五〇〇)

報告 早田 亨(東洋大)

司会 沼心 良人(京大)

二、總會 (一七、四〇〇—一七、七〇〇)



なお、後述の、懇親会終了後、同席におき、右のメンバーに又、早田、西教授を加え、

以来の共同研究のテーマは、同席法辞典の存続の取組選定、並にその中の共同研究の結果の発表

方法、(4)未定春の早田の報告者選定等、等らつて協議した。その結果、(1)は、池田、早田

案に基き、関西方面に溜池、川上、西、斎藤の協賛校が更に検討すること、(2)は、池田よりリス

への掲載の可能性を打診し、その結果により、溜池、川上、西教授より、同席法外支那語の編集部と交渉

すること、(4)は、川上は、同席法研究会より川上教授、同席法研究会より山田、溜池、五十嵐の三教授

を一応候補とする事、(1)は、川上は、慶大の協賛校の基幹が一応候補にあげられ、法事と並ぶ、

連絡連絡委員の協賛校の協議が、法事を作成すること、等らつた。

四、懇親会(一七〇〇—一九〇〇)

全集

東京大学、トリストランで、会員多数が出席して、川上、慶大、法事部長の挨拶があった。

五、出席者